

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は19.85(1350例)で、第44週に流行発生警報の開始基準値(30.0)を超えた後、継続基準値(10.0)以上を満たしているため警報発令中ではあるものの、第47週以降減少しています。年齢群別では、「5～9歳」が最も多く、次いで「0～4歳」で、第41週以降、「0～4歳」の占める割合が増加してきています。
第49週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した41例のうち、29例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(12例は陰性)。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.22(50例)で、第45週から増加傾向となっています。年齢階級別割合では、1歳が最も多く、36.0%(18例)を占めています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が3例(1歳, 2歳)あり、報告が4週連続しています。過去5年平均値の推移では、12月が最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、第48週追加(1例)と第49週分(6例)を合わせて7例あり、この時期としては多くなっています。

詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 なし, 肺外結核 1例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 368例(肺結核 238例, 肺外結核 86例, 無症状病原体保有者 44例), (喀痰塗抹陽性 114例)】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 7例(第48週1例追加, 第49週6例)【1月以降の累積報告数 91例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症: I 期) 1例(第48週追加)【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例(第47週追加)【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点 | 感染症名 | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|----------------------|-----------------|----------|------|
| インフルエンザ ^a | インフルエンザ | 19.85 | 1350 |
| 小児科 (降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎 | 3.44 | 141 |
| | ② 水痘 | 1.22 | 50 |
| | ③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 0.59 | 24 |
| | ④ 流行性耳下腺炎 | 0.56 | 23 |
| | ⑤ 突発性発しん | 0.41 | 17 |
| 眼科 | 流行性角結膜炎 | 0.30 | 3 |

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

| 検出病原体(報告数) | 臨床診断名(採取週) | 検体名 | 検出病原体(報告数) | 臨床診断名(採取週) | 検体名 |
|------------|-----------------------------------|--------------|---------------|-------------|-----|
| 黄色ブドウ球菌(3) | かぜ症候群(第42週, 第44週) 感染性胃腸炎(第42週) | NP×2 FC×1 | A群溶血性レンサ球菌(1) | かぜ症候群(第42週) | NP |

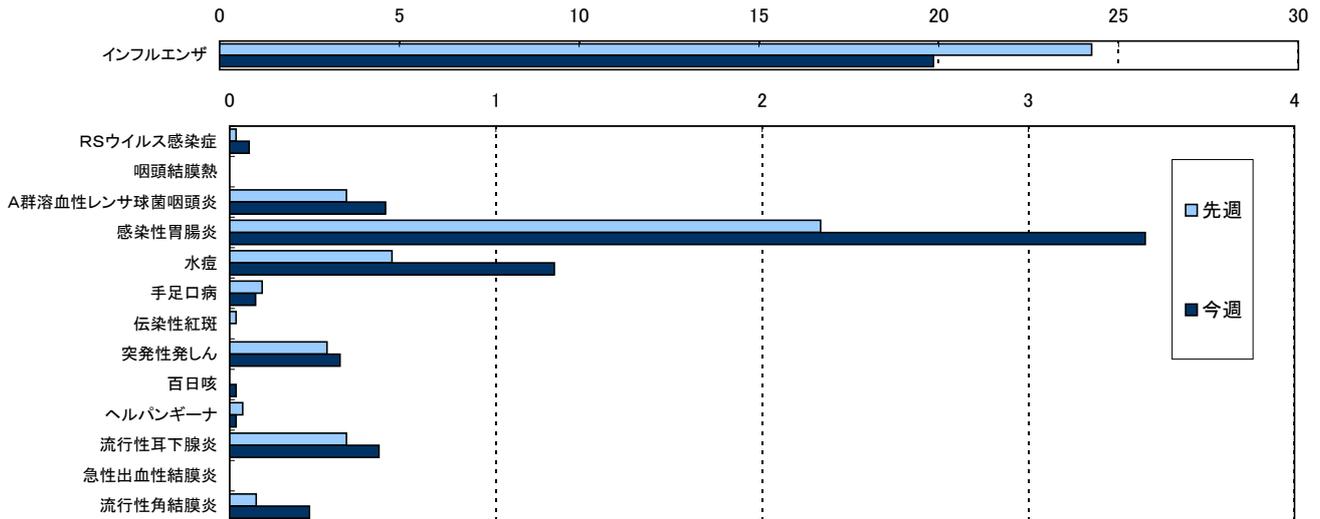
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

(注) 京都市のデータは、平成21年12月10日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

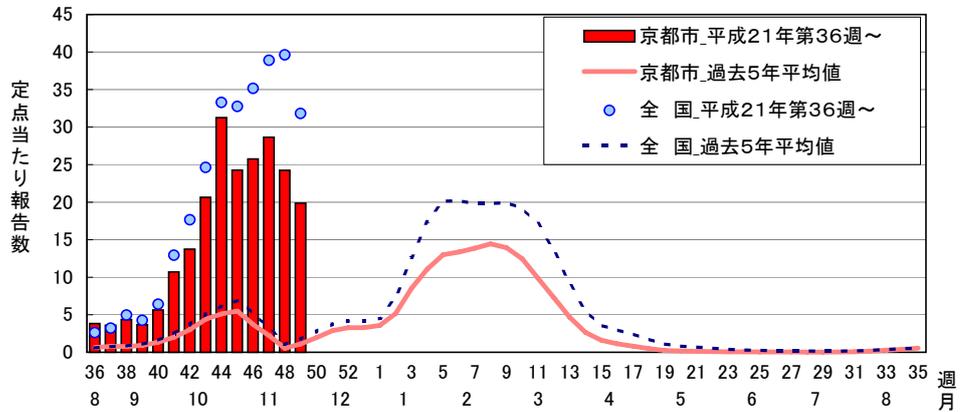
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第49週)と先週(第48週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

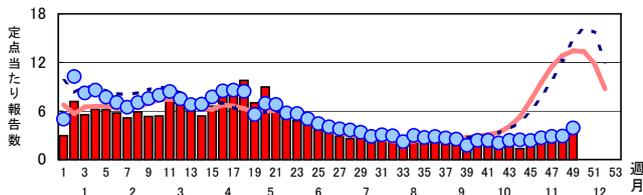
| 週 | 報告数(例) |
|-------------------|--------|
| 第45週 | 1650 |
| 第46週 | 1751 |
| 第47週 | 1948 |
| 第48週 | 1649 |
| 第49週 | 1350 |
| 累積報告数 (第36週以降) | 14973 |



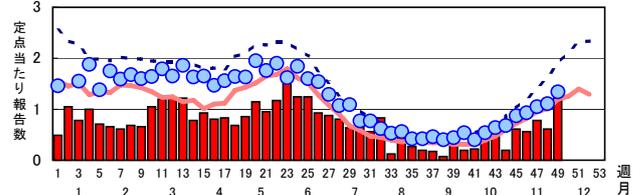
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

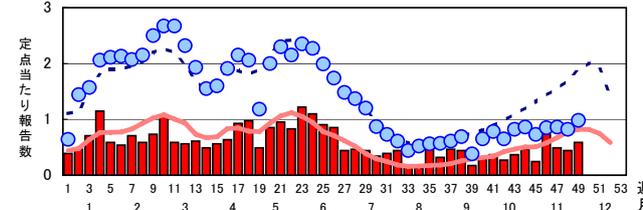
1 感染性胃腸炎



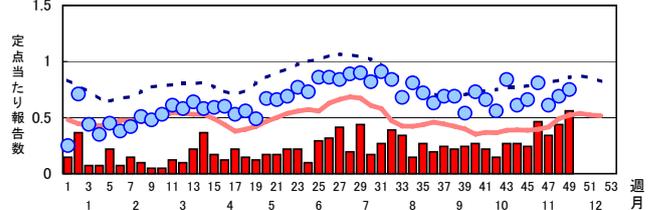
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

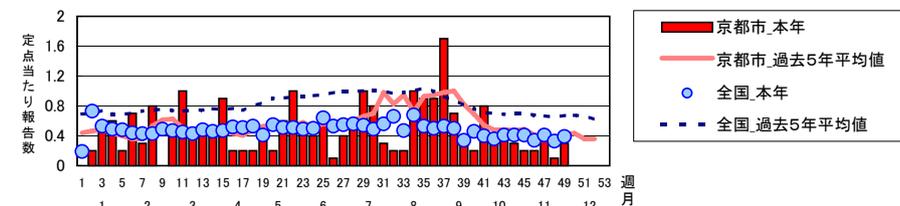


4 流行性耳下腺炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第49週(11月30日～12月6日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、第48週追加分(1例)と第49週分(6例)を合わせて7例あり、この時期としては多くなっています。

今週に報告のあった7例の内訳をみると、型別は、すべてO157(VT1VT2)で、そのうち1例がHUS(溶血性尿毒症症候群)です。年齢群では、10歳未満、10歳代、30歳代が各2例、60歳以上が1例で、性別及び発生状況別では、女性、家族内感染が大半(各6例)を占めています。感染経路は、経口感染が3例(ハンバーグ又は生レバー、ユッケ、不明)、不明が4例です。

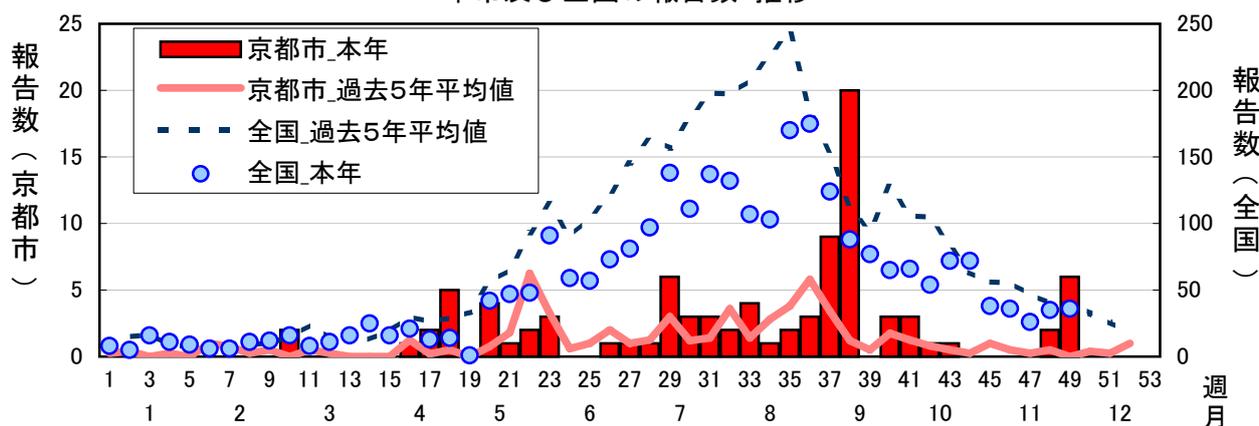
本年の第49週までの累積報告数(91例)をみると、第26週から第38週まで、報告の連続する期間があり、第38週(9月)の20例が最も多くなっています。

HUSの報告は、第42週(10月)及び第49週(11月)の2例(22歳及び7歳)となっています。

型別では、O157(77例)の他、平成20年(5月)に本市で初めて報告のあったO145が第48週(11月)に1例、その他、O26(8例)、O111(3例)、O91(1例)、型不明(1例)がありました。

診断年別に10年間の第49週までの累積報告数をみると、本年は、平成15年に次いで多くなっています。また、平成17年以降、報告数は増加傾向となっています。

本市及び全国の報告数 推移



診断年別報告数(平成12年以降の10年間)

| 診断年 | 年間 | 第49週までの累積 |
|-------|-----|-----------|
| 平成12年 | 33 | 33 |
| 平成13年 | 52 | 51 |
| 平成14年 | 35 | 33 |
| 平成15年 | 101 | 99 |
| 平成16年 | 48 | 47 |
| 平成17年 | 36 | 35 |
| 平成18年 | 57 | 52 |
| 平成19年 | 54 | 54 |
| 平成20年 | 86 | 86 |
| 平成21年 | — | 91 |

